

大村市立大村小学校 学校だより

【学校教育目標】 自分とみんなのために 【目指す児童像】 気づく子 学ぶ子 元気な子

玖城のほとり

令和7年4月11日発行

第1号

文責：校長 堺 邦寿

★ 進級・入学 おめでとうございます! ★

中庭の桜が、大小っ子の進級と入学を待っていたかのように、満開のままずっと咲き続けました。少し遅くなりましたが、お子様の進級・入学、誠におめでとうございます。

4月7日の始業式で2～6年生が1学年ずつ進級し、そして4月9日には、106名の新1年生を迎え、令和7年度の大小っ子がすべてそろいました。今年度は全児童数611名でのスタートです。

改めまして、本年4月から校長として赴任しました、堺 邦寿（さかい くにひさ）と申します。教育委員会事務局から参りました。15年前、教頭として本校に勤務しておりましたので、本当に懐かし、また黒門校に勤務できることを大変うれしく思っています。

611名の大小っ子の健やかな成長のために、心と力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願い致します。

また、校長室の扉は、不在時や会議時以外、開けておりますので、ご相談等ありましたら、どうぞお気軽にお越しください。気軽にお越しただける校長室にしたいと考えています。よろしくお願い致します。



◎学校だより「玖城のほとり」について

これは校歌の1番にあることばで、「遠き歴史と親愛の 心を受けて今になお」にあるように、大村小の歴史と黒門校としての誇りを大切にしたいという思いからこの名称にしました。今後、大小っ子の活躍や私の考えや思い等をお伝えしてまいります。よろしくお願い致します。

※ 裏面に、木村指導教諭作成の「特別支援教育だより」を載せております。どうぞお読みください。

～ みんなちがって みんないい (その1) ～

今年も学校便りをお借りして、特別支援教育や子どもたちの特性、子育てなどの話題を中心とした連載を続けさせていただきます。繰り返し読んでいただくことで理解を深めていただければと思っていますので、同じ話題をお届けすることになりますが、是非ご愛読いただければ嬉しいです。

第1回目は昨年同様、題の元になった金子みすゞさんの詩を通して、学校教育の基本的考えでもある「多様性を認め合う」ことの大切さについてお話しさせていただきます。

わたしが両手をひろげても
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥はわたしのように
地面(じべた)をはやくは走れない
わたしがからだをゆすっても
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴はわたしのように
たくさんうたは知らないよ
鈴と 小鳥と それからわたし
みんなちがって みんないい

金子みすゞさんの「私と小鳥とすずと」は、インクルージョンや多様性を語る時によく用いられます。この詩は「多様な人々が互いを認め合い、協力して生きていくことの大切さ、その考えを実践し子どもを育てていく学校でありたいこと」を表現する一つの指針でもあります。

「多様性を認め合う」とは、「人種・性別・国籍・年齢・文化・宗教・思想・価値観・障害の有無など」の違いを認め、互いに尊重し合うことです。

昨年お話ししたように、日本は2007年に国連の「障害者権利条約」に署名し、そこから様々な法整備を急ピッチで行い2014年から順次施行しています。

ただ残念ながら、日本は先進国の中でも「多様性を認め合う」考え方が最も遅れている国になります。多様性についての国別の意識調査を行ったデータとして、世界経済フォーラムが算出する「世界男女格差報告書(ジェンダーギャップランキング)」があります。2019年、日本は世界153カ国中121位と史上最低指数でした。昨年6月には146カ国中118位と好転していません。昨今のニュース

を見ていても、男女差別や格差、障害者差別などに起因する問題が後を絶ちません。

これらも要因の一つと言えるかも知れませんが、世界的に見ても平和で安全といえる日本でありながら、2025年3月発表の「世界幸福度ランキング」では147カ国中55位と、前年から4つも順位を下げるほど、幸福感を実感できない現状が続いています。政治や経済だけが問題では無い、根深い問題が横たわっています。

このような格差や差別は、無意識のうちに人の価値観に刷り込まれていきます。

例えば、「赤やピンクは女性・青や黒は男性」「長い髪は女性・短い髪は男性」「スカートは女性・ズボンや作業服は男性」「家事や子育ては女性・仕事をするのは男性」などなど、男女に対する考え方や無意識に選択してしまっていることがたくさんありませんか？

男女のことでも更にたくさんの差別・格差意識が出てくるのですから、「障害」や「仕事」、「考え方」や「慣習」などを挙げれば、「ちょっと変かも？」と思えることは私たちの身の回りにあふれ返っています。普段意識せず、当たり前だと思っていたことに意識が向けられるようになることが大切です。

しかし、多様性を尊重するあまり、個性や特性に配慮し、個を大切にすることだけが優先されてしまうことも正しいこととは言えません。人は社会の中で平和かつ安全に生活しています。平和で安全に生活するためにはルールを守る必要があります。個性や特性を理由にルールを破っても良いということは認められません。尊重され優先される価値観と多様性の関係については、慎重に考えなければならぬ側面もあります。

インクルーシブ教育の考え方は「多様性を理解し認め合う」ことで、そのために私たちは「個に応じた支援や対応」を大切にしなければいけません。

「多様性を認め、尊重する」ということは、先にも述べましたように、価値観や時代など様々な条件に左右されることなく、守られ尊重されなければならないものでもあり、行き過ぎた利己主義にならないよう十分気を付けなければならないものでもあります。

これから「特別支援教育」や「発達障がい」「子育て」などの話題を通して、「多様性を尊重し認め合う」ことを一緒に考えていければと思います。

「みんなちがって みんないい」の意識をみんなと共有できると素敵ですね。